

令和元年度

春日市下水道事業会計の決算について（概要版）

令和2年10月

春日市 都市整備部 下水道課

春日市下水道事業の令和元
年度決算について、私たち、
「かすがくん・あすかちゃん」
が説明するよ！



春日市マスコットキャラクター かすがくん・あすかちゃん

目次

1	決算ってなあに？	1
2	決算はどうだったの？	2
3	家計簿にたとえると？	4
4	わたしたちの使用料の使いみちは？	6
5	うつりかわり	7
	・ 下水道の整備費と普及率	7
	・ 下水道使用料と有収水量	8
	・ 借入金の残高	9
	・ 資金不足比率	10

(図解資料集)

・ 損益計算書	資料1
・ 貸借対照表	資料2
・ キャッシュ・フロー計算書	資料3

(用語集)

1 決算ってなあに？

●決算って？



決算とは、1年間に入ってきたお金（収入）と、出て行ったお金（支出）をまとめて、みなさんに報告するものなんだ。

みなさんと一緒に「平成31年4月1日から令和2年3月31日まで」の1年間のうちに、下水道の事業のために使われたお金の出入りを見ていこう。

●令和元年度の決算はどうだったの？



令和元年度の下水道事業会計決算は、日々の事業活動に必要なお金を意味する収益的収支においては、約21億3,364万円（税抜）の収益に対し、約17億6,740万円（税抜）の費用がかかり、その結果、**約3億6,624万円**の利益があったよ。

一方、下水道施設を建設・改良したり、借入金を返済したりするためのお金を意味する資本的収支を見ると、約15億47万円のお金がかかり、そのための財源として約5億4,599万円の収入があり、残りの足りない分は貯金を取り崩したりしてやりくりしたんだね。



2 決算はどうだったの？

まずは、令和元年度の下水道事業会計の決算のうち、入ってきたお金（収入）を見てみましょう。
 ※長期前受金戻入や減価償却費など、お金の動きが無いものも含んでいます。

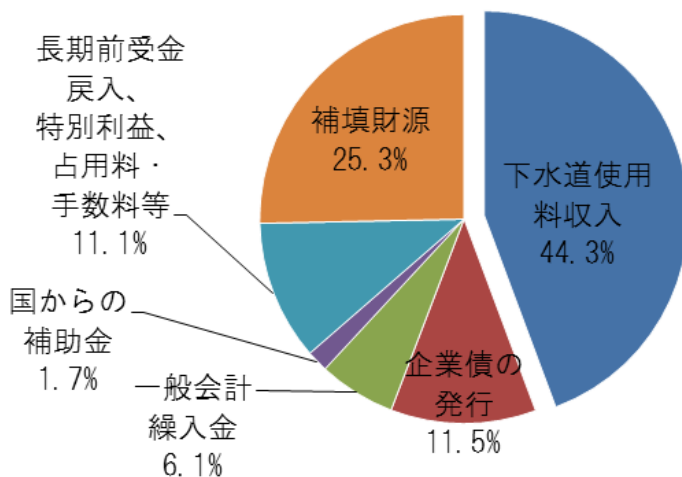
(金額は税込)

内 容	金額 (円)	割合 (%)
下水道使用料収入	1,668,999,479	44.3%
企業債の発行	433,700,000	11.5%
一般会計繰入金	229,820,375	6.1%
国からの補助金	64,000,000	1.7%
長期前受金戻入、特別利益、占用料・手数料等	416,100,287	11.1%
補填財源	954,476,282	25.3%
合 計	3,767,096,423	100.0%

下水道事業は、みなさんが納めている下水道使用料を主な収入源として経営することになっているんだ。でも、入ってきたお金のうち、下水道使用料は **4割** くらいなんだね。

そのほかの収入を見ると、企業債の発行（借金）、国からの補助金、春日市の一般会計からの繰入金（税金）などがあることがわかるはずだよ。

入ってきたお金の内容



入ってきたお金（収入）の次は、使ったお金（支出）の内容を見てみましょう。

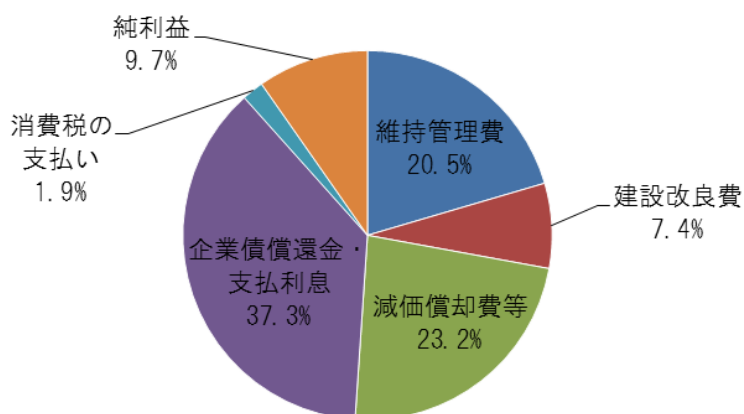
（金額は税込）

内 容	金額（円）	割合（％）
維持管理費	770,433,942	20.5%
建設改良費	280,018,606	7.4%
減価償却費等	873,669,849	23.2%
企業債償還金・支払利息	1,405,129,092	37.3%
消費税の支払い	71,607,900	1.9%
純利益	366,237,034	9.7%
合 計	3,767,096,423	100.0%

「建設改良費」「減価償却費等」「企業債償還金・支払利息」で支出全体の **約7割** を占めていることが分かるね。これらは、下水道の整備などのハード面にかかる費用なのよ。こうやって支出の内訳を見るだけでも、下水道事業にはとてもたくさんの建設費用がかかるということがわかるね。

それにしても、難しそうな言葉がたくさんあってイメージしづらいね。それぞれの言葉がどういうものなのか、次のページで家計簿に例えて見てみましょう！

使ったお金の内容



3 家計簿にたとえと？

2 ページで見た1 年間に入ってきたお金を、1 年間の家計簿に置きかえて見てみましょう。
 (家族の総収入300万円の家計に例えて説明します。)

※一部、内容が家計にそぐわない項目もありますが、なるべく分かりやすい表現にしています。

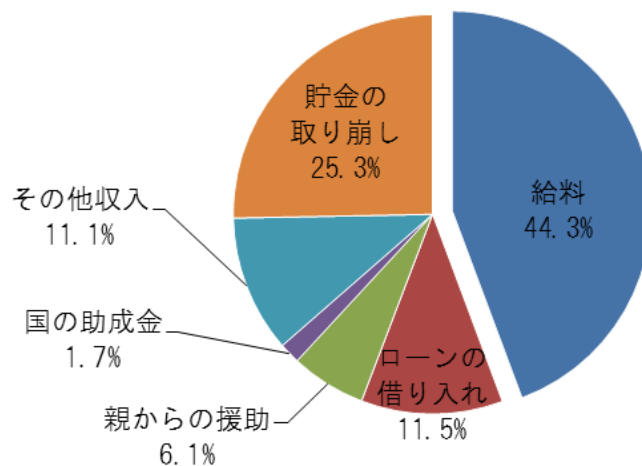
(金額は税込)

内 容	金額 (円)	割合 (%)
給料 (下水道使用料)	1,329,000	44.3%
ローンの借り入れ (企業債の発行)	345,000	11.5%
親からの援助 (一般会計繰入金)	183,000	6.1%
国の助成金 (国からの補助金)	51,000	1.7%
その他収入 (占用料・手数料等)	333,000	11.1%
貯金の取り崩し (補填財源)	759,000	25.3%
合 計	3,000,000	100.0%

本来、使うお金はお給料でやりくりするのが理想だけど、ローンの借り入れ、親からの援助、貯金の取り崩しにも頼っていることがわかるね。

下水道の整備にはたくさんお金を出して先行投資する必要があることや、自然現象である雨水の処理にかかるお金は一般会計が負担することになっているからなんだ。

1年間の家計簿



3 ページで見た 1 年間に使ったお金を、1 年間の家計簿に置きかえて見てみましょう。

(家族の総収入 300 万円の家計に例えて説明します。)

※一部、内容が家計にそぐわない項目もありますが、なるべく分かりやすい表現にしています。

(金額は税込)

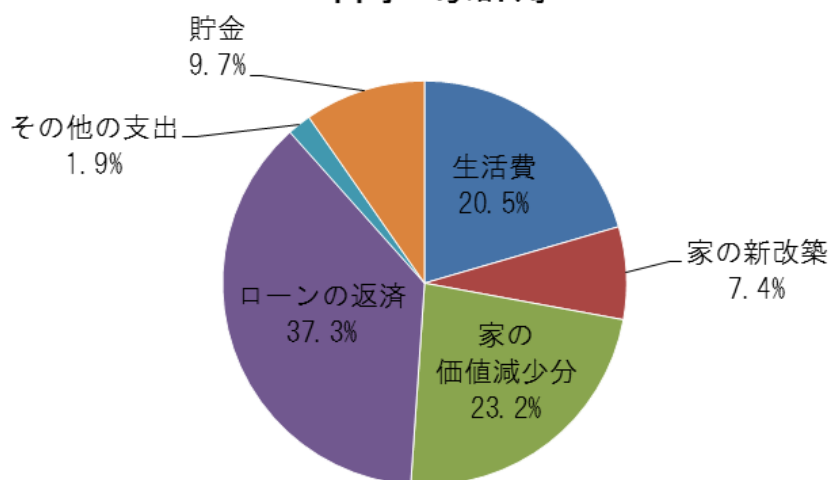
内 容	金額 (円)	割合 (%)
生活費 (維持管理費)	615,000	20.5%
家の新改築 (建設改良費)	222,000	7.4%
家の価値減少分 (減価償却費)	696,000	23.2%
ローンの返済 (企業債償還金)	1,119,000	37.3%
その他の支出 (消費税支払・特別損失等)	57,000	1.9%
貯金 (純利益)	291,000	9.7%
合 計	3,000,000	100.0%

ローンの返済が全体の **3分の1以上** を占めていることがわかるね。これは、下水道を整備するときに借りたお金を毎年返しているものなのよ。

こういった施設を作るのにはたくさんのお金が必要になるんだけど、一度作ってしまえば数十年にわたって使うことができるよね。なのに、その工事にかかった費用を、作った当時の人たちだけで負担するのは不公平よね？完成した施設を使う私たちも平等に費用を負担しなければならない。そこで、作る時にはお金を借りて、何年もかけて返済することで、不公平がないようにしているのね。



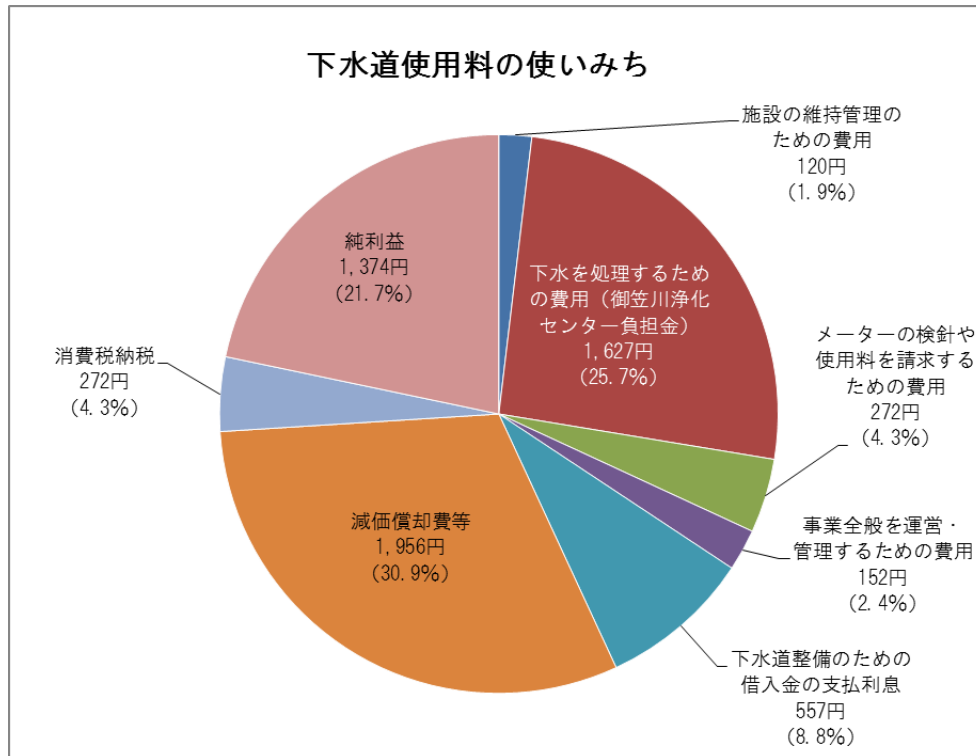
1年間の家計簿



4 わたしたちの使用料の使いみちは？

今まで、1年間に入ってきたお金、使ったお金について見てきました。でも、わたしたちが実際に支払った下水道使用料って、どんなことに使われているのでしょうか？

みなさんに分かりやすく理解してもらうために、「下水道使用料の使いみち」を少し詳しく見てみましょう。



(※) 2ヵ月で40 m³使用したときの下水道使用料6,330円を想定しています。

御笠川浄化センターで下水をきれいにして、川に流すことができるようにするために約3割が使われていることがわかるわ。



借入金の利息や減価償却費などにも約4割が使われているね。やっぱり下水道施設の整備にはたくさんのお金が必要だってことがわかるね。

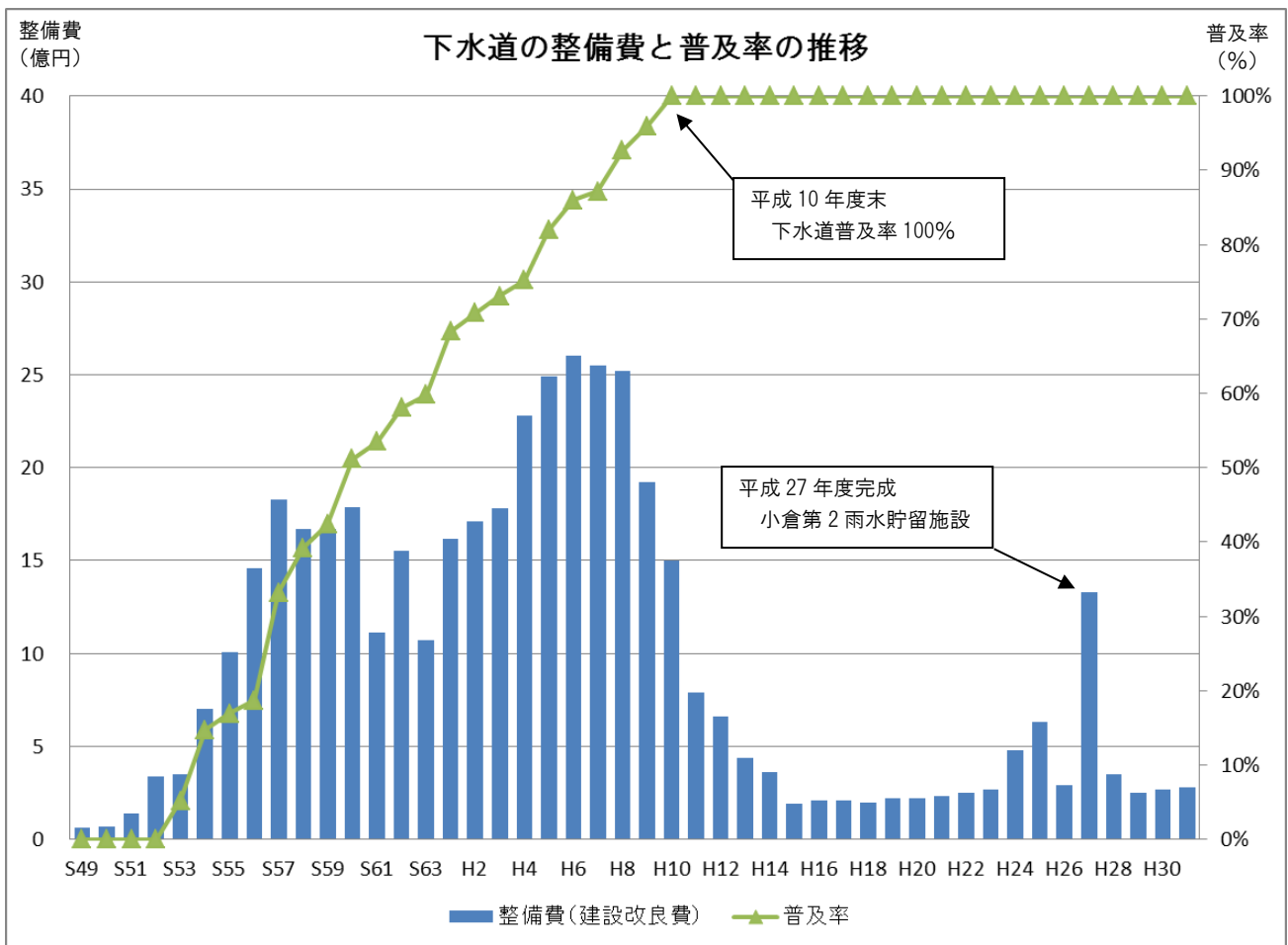


5 うつりかわり

まずは、下水道の整備費と普及率について、年度ごとのうつりかわりを見てみましょう。棒グラフは下水道の整備費を、折れ線グラフは普及率をそれぞれ表しています。

春日市の下水道整備は、昭和 48 年度にスタートし、市北部（下流側）や西鉄・JRの鉄道駅を中心とした商業店舗が多い地区の整備を進め、昭和 53 年度から順次供用を開始しました。

その後も計画的に整備を進め、平成 10 年度に下水道普及率 100%を達成しました！



※整備費（建設改良費）には、雨水整備費を含みます。



近年、温暖化の影響で、局所的な集中豪雨、いわゆる「ゲリラ豪雨」が増加しているよね。
ゲリラ豪雨による雨水が下流に一気に流れていかないように、雨水の貯留施設や雨水幹線を整備して、浸水被害への対策も着実に進めているよ！

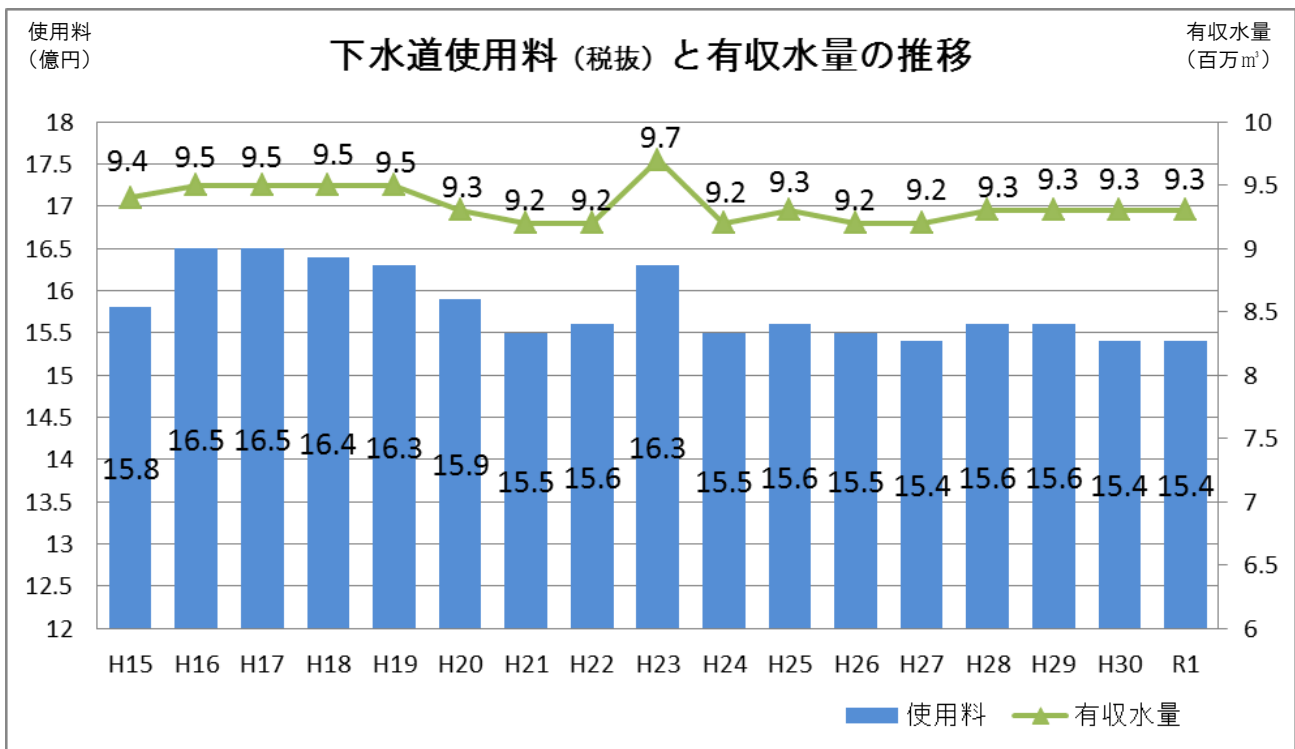
次は、下水道使用料（税抜き）と有収水量（※下の説明参照）について、年度ごとのうつりかわりを見てみましょう。棒グラフは下水道使用料を、折れ線グラフは有収水量をそれぞれ表しています。



このグラフを見ると、下水道使用料と有収水量の増減には関係があることがわかるね。

平成 16 年度は、料金改定をしたから、有収水量は大きく変わっていないけれど、使用料が増えているね。

平成 23 年度に大きく使用料と有収水量が増えているのは、一部の地区の検針月を変更して、調整のため 1 月分の検針をしたからなのよ。

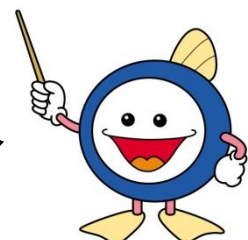


ゆうしゅう

ここで、「有収水量」について説明しよう。

「有収水量」っていうのは、下水の処理場で処理された水量のうち、下水道使用料の対象となる水量のことで、令和元年度は、市内の家庭や事業所で使った水が約 930 万立方メートルも流れているんだ。

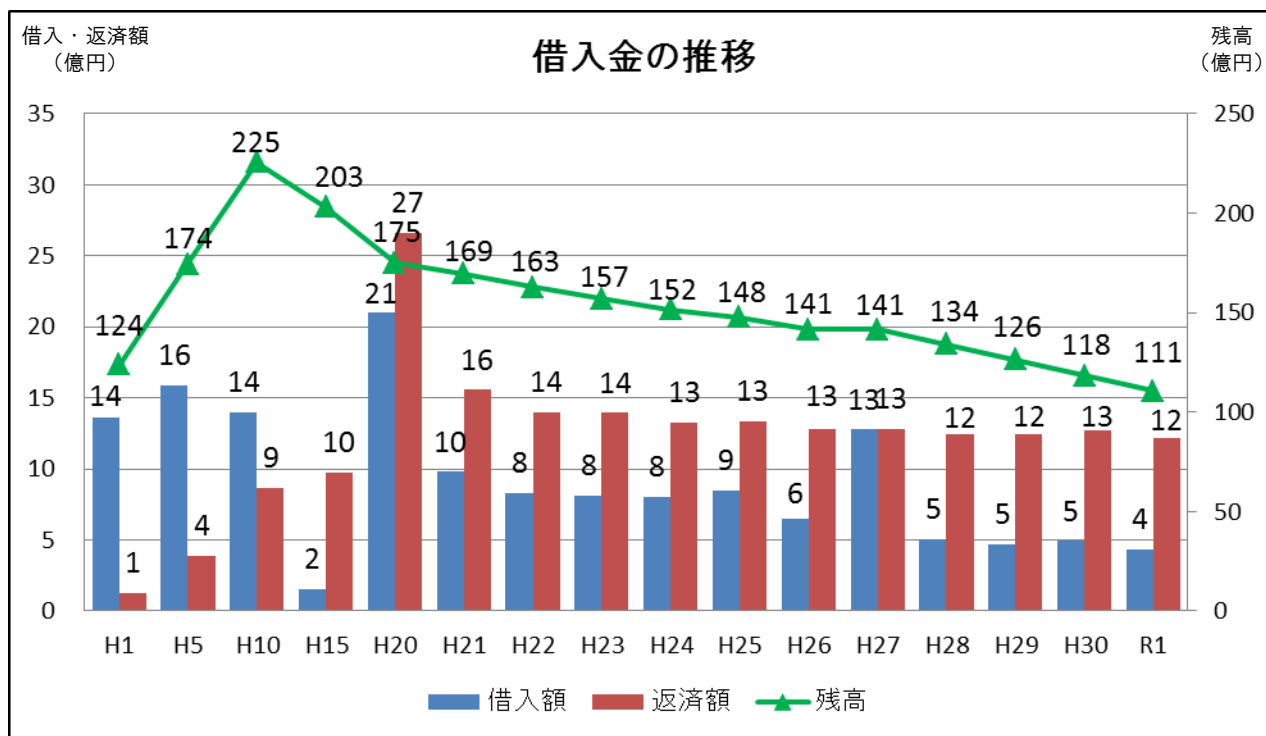
なんかピンとこない数字だけど、実は、福岡 Pay Pay ドームの天井まで一杯に入れて、約 5 杯分にもなるんだよ！



下水道マスコットキャラクター
「スイスイ」

次は、借入金の残高について、年度ごとのうつりかわりを見てみましょう。

棒グラフは左側が借入額、右側が返済額、折れ線グラフは借入金の残高をそれぞれ表しています。



今後はゲリラ豪雨に対応するための雨水幹線の工事や、老朽化してきた施設の長寿命化が中心となって、借金は減っていく見込みだよ！



令和元年度における雨水幹線工事

(写真) 大和第1雨水幹線改良工事 (場所: 日の出町3丁目地内)



(着工前)

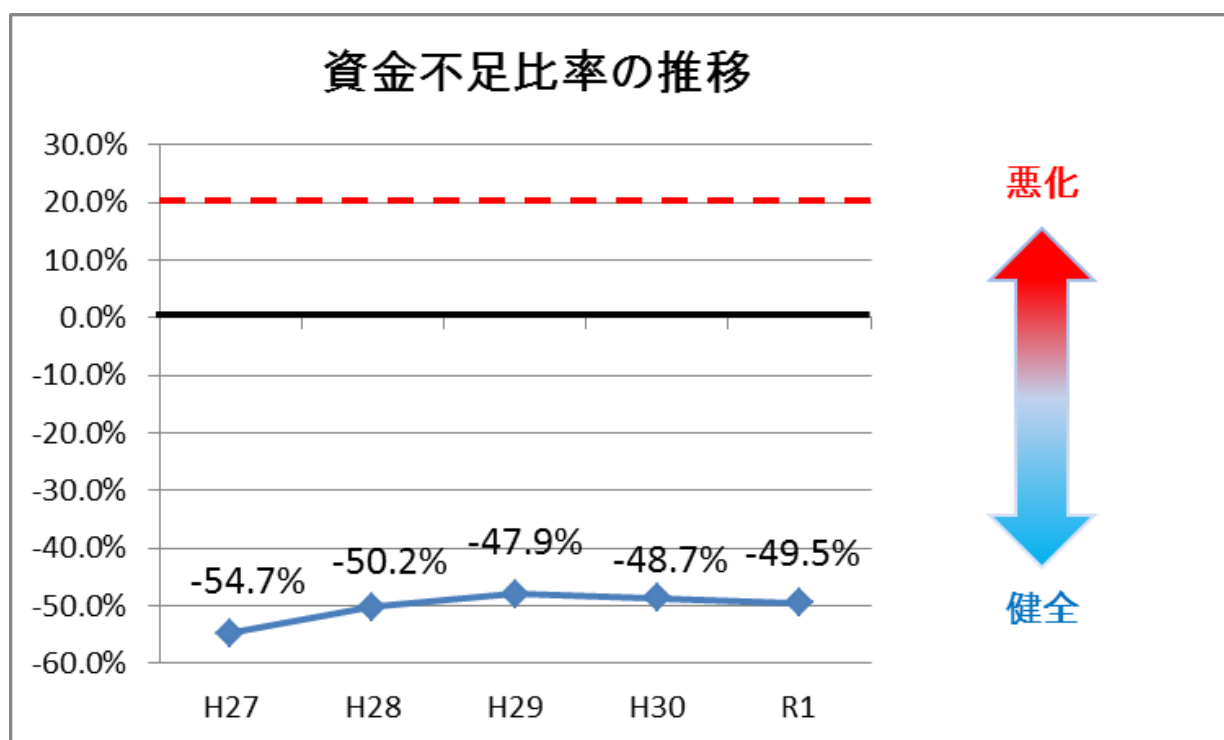


(竣工)

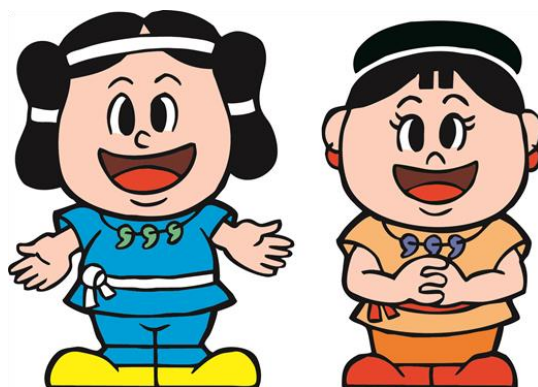
最後に「資金不足比率」の推移についてご紹介します。

「資金不足比率」とは、下水道事業の経営状態を、資金不足の度合い（資金繰りの危険度）から診断するための比率であり、この比率を公表することが法律で義務付けられています。この比率が高いほど、資金繰りが危険であるといえます。

経営状態の診断のための目安として、資金不足比率には「経営健全化基準（20.0%）」が設けられています。春日市の下水道事業は、この基準を大きく下回っているため、経営は健全であるといえます。



春日市の下水道事業の経営状態は健全な状態にあります。今後も引き続き、適正な財政運営に努めます。



【図解】損益計算書（P/L：Profit and Loss statement）（決算書P5）

<損益計算書とは？>

損益計算書は、1事業年度の経営成績を明らかにするために、その期間中に得たすべての収益とこれに対応するすべての費用を記載した報告書です。

<損益計算書から分かること>

損益計算書により、どのような経営活動によって、どれだけの経営成績を上げたかを知り、それに基づいて過去の経営を分析し、また、将来の方針を立てることが可能となります。

令和元年度春日市下水道事業損益計算書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

	円	円	円
1 営業収益			
(1) 下水道使用料	1,535,890,229		
(2) 他会計負担金	157,672,225	1,693,562,454 (ア)	
2 営業費用			
(1) 管渠費	45,975,426		
(2) 業務費	64,857,600		
(3) 流域下水道費	534,929,726		
(4) 総係費	63,340,420		
(5) 減価償却費	858,365,898	1,567,469,070 (イ)	
営業利益		126,093,384	(ウ) = (ア) - (イ)
3 営業外収益			
(1) 受取利息及び配当金	450,979		
(2) 補助金	23,856,487		
(3) 長期前受金戻入	271,723,024		
(4) 雑収益	4,737,240	300,767,730 (エ)	
4 営業外費用			
(1) 支払利息	184,679,753		
(2) 雑支出	15,248,700	199,928,453 (オ)	
経常利益		100,839,277	(カ) = (エ) - (オ)
5 特別利益			
(1) 過年度損益修正益	139,304,373		
(2) その他特別利益	0	139,304,373 (ク)	
6 特別損失			
(1) 過年度損益修正損	0		
(2) その他特別損失	0	0 (ケ)	(コ) = (ク) - (ケ)
当年度純利益		366,237,034	(サ) = (カ) + (コ)
前年度繰越利益剰余金		0	
その他未処分利益剰余金変動額		0	
当年度未処分利益剰余金		366,237,034	

①営業利益

本業による利益
通常の業務活動の損益の結果が表示されます。

②経常利益

経営努力の成果を示す利益
通常の業務活動に関する損益に加えて、資金調達等に関する損益の結果が表示されます。

③当年度純利益

最終的な利益
1年間のすべての損益の結果が表示されます。

当年度純利益は、「減債積立金」とし、翌年度の起債償還の財源とします。
(剰余金処分計算書(決算書P7)参照)



3つの段階で利益を把握
利益 = 収益 - 費用

【図解】貸借対照表 (B/S:Balance Sheet) (決算書P9、10)

<貸借対照表とは？>

貸借対照表は、一定の時点(年度末)における事業が保有する財産の残高を表した報告書です。

<貸借対照表から分かること>

資産は事業の経営の活動手段である資金の運用形態を示し、負債・資本においてはその資産がどのようにして得られたかという調達源泉を示しています。これにより、事業の財政状態(ストック)を把握することが可能となります。

令和元年度春日市下水道事業貸借対照表
(令和2年3月31日)

(単位：円)

【 資産の部 】		金額	【 負債の部 】		金額
固 定 資 産		24,107,764,868	固 定 負 債		9,849,827,973
有形固定資産		23,265,796,245	企業債		9,849,827,973
土 地		819,703,820	引 当 金		0
構 築 物		41,226,114,391	流 動 負 債		1,392,316,720
機 械 及 び 装 置		2,130,074	一時借入金		0
工 具 器 具 及 び 備 品		14,805,630	企 業 債		1,209,292,939
減価償却累計額		△ 18,925,947,596	未 払 金		150,539,185
建 設 仮 勘 定		128,989,926	引 当 金		6,813,000
			その他流動負債		25,671,596
無形固定資産		839,748,623	繰 延 収 益		7,751,706,324
施 設 利 用 権		839,748,623	長期前受金		13,850,919,608
投資その他の資産		2,220,000	収益化累計額		△ 6,099,213,284
出 資 金		2,220,000	負 債 合 計		18,993,851,017
流 動 資 産		1,013,188,309			
現 金 預 金		405,103,387	【 資本の部 】		金額
未 収 金		621,459,177	資 本 金		5,173,570,553
貸倒引当金		△ 13,374,255	剰 余 金		953,531,607
			資本剰余金		587,294,573
			利益剰余金		366,237,034
資 産 合 計		25,120,953,177	資 本 合 計		6,127,102,160
			負 債 ・ 資 本 合 計		25,120,953,177

資産の部

土地、構築物、現金預金など、企業の所有財産が記載されています。

負債の部 (固定・流動負債)
44.7%
(前年度比▲2.4ポイント)

企業債など支払義務があるものが記載されています。

負債の部 (繰延収益)
30.9%
(前年度比+0.4ポイント)

資産(構築物)の取得のために交付された補助金など、支払義務がないものが記載されています。

資本の部
24.4%
(前年度比+2ポイント)

資本金や事業で得られた利益など、返す必要のない資金が記載されています。



貸借対照表の右半分(お金の集め方)のバランスを見てみましょう。前年度と比べて、支払義務があるものの割合が減り、逆に支払義務がないものの割合が増えていることが分かります。このことから、財政状態は**良好な方向に向かっている**ことが分かります。

左半分は「お金の使い方」
企業の財産がどのような状態で、いくらあるか把握できます。

右半分は「お金の集め方」
企業の財産がどのような財源でつくられたか把握できます。

【図解】キャッシュ・フロー計算書(C/F:Cash Flow statement) (決算書P21)

<キャッシュ・フロー計算書とは?>

キャッシュ・フロー計算書は、1事業年度の資金収支の状況を、一定の活動区分別に表示した報告書です。

<キャッシュ・フロー計算書から分かること>

貸借対照表や損益計算書では把握しにくい1事業年度(4/1~3/31)における現金預金の流れを、「業務活動」、「投資活動」、「財政活動」の3つに区分して表示することで、資金繰りの状況を明らかにし、経営の健全性や経営悪化などの判断が可能となるものです。

<キャッシュ・フロー計算書の読み方>



春日市下水道事業は、この分類に該当しています。

業務活動によるCF	投資活動によるCF	財務活動によるCF	経営状況(例)
	-	-	現在成功している会社。 経常的な企業活動で生み出した資金を、健全に投資活動と財務活動に使っている。
+	+	+	資金は潤沢な会社。 資金の使途が明確となっていない。戦略的な投資・買収に備えていることも考えられる。
	-	+	拡大指向の成長会社。 本業も順調であるが、財務活動により資金を調達し、積極投資を行っている。
	+	-	リストラ実施中の会社。 借入金返済を優先し、将来的な投資活動を行っていない。
-	-	+	設立後間もない成長会社。 借入・増資等による調達資金により、投資を行っている。
	+	+	資金不足を補っている会社。 資金繰りがひっ迫しているため、資産の売却、増資等を行っている。
	+	-	本業不振の会社。 保有資産の切り売りによって借入金の返済を行っている。
	-	-	倒産の危険性のある会社。 過去からの剰余金等で、なんとか生き残っている。

(出典)『決算書を読みこなして経営分析ができる本』日本実業出版社

令和元年度春日市下水道事業キャッシュ・フロー計算書
(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

		円
1 業務活動によるキャッシュ・フロー		
当年度純利益		366,237,034
減価償却費		858,365,898
固定資産除却費		0
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△	1,043,532
賞与引当金の増減額(△は減少)	192,000	
法定福利費引当金の増減額(△は減少)	51,000	
修繕引当金の増減額(△は減少)	0	
長期前受金戻入額	△	271,723,024
受取利息及び受取配当金	△	450,979
支払利息		184,679,753
未収金の増減額(△は増加)		31,426,781
未払金の増減額(△は減少)	△	73,725,575
小計		1,094,009,356
利息及び配当金の受取額		450,979
利息の支払額	△	184,679,753
預り金の増減(△は減少)		25,256,393
業務活動によるキャッシュ・フロー	●	935,036,975
2 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△	189,365,554
無形固定資産の取得による支出	△	67,528,631
国庫補助金等による収入		58,181,814
一般会計からの繰入金による収入		46,289,379
投資活動によるキャッシュ・フロー	●	△ 152,422,992
3 財務活動によるキャッシュ・フロー		
一時借入れによる収入		0
一時借入金の返済による支出		0
建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入		433,700,000
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△	1,220,449,339
財務活動によるキャッシュ・フロー	●	△ 786,749,339
資金増加額(又は減少額)	▶	△ 4,135,356
資金期首残高		409,238,743
資金期末残高		405,103,387

業務活動によるキャッシュ・フロー

外部からの資金調達に頼ることなく、どのくらいの資金を本来の業務活動で獲得したかを表したもので、主に収益的収支(3条予算)の内容を表します。
→**+(プラス)**であることから、**業務活動が良好であることが分かります。**

投資活動によるキャッシュ・フロー

固定資産の取得など、将来の利益及び資金獲得のための設備投資にどのくらいの資金を支出したか、また、その資金をどのくらい回収したかを表したもので、主に資本的収支(4条予算)の内容を表します。
→**△(マイナス)**であることから、**積極的に投資を行っていることが分かります。**

財務活動によるキャッシュ・フロー

業務活動や投資活動を維持するために、どのくらいの資金を調達し、また、返済したかを表したもので、主に資本的収支(4条予算)の内容を表します。
→**△(マイナス)**であることから、**借入金残高が減少していることが分かります。**

←貸借対照表(決算書P9)

現金預金と一致します。